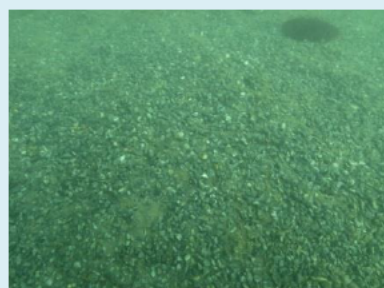


碎石覆砂によるアサリの漁場造成

伊勢湾では、近年、アサリの漁獲対象資源量が大きく減少し、その対策を図ることが課題となっています。本研究では、碎石覆砂による漁場造成が漁獲対象資源量の増加に有効であることを明らかにしました。



大型台船による施工風景



碎石覆砂した海底



施工区で育成したアサリ

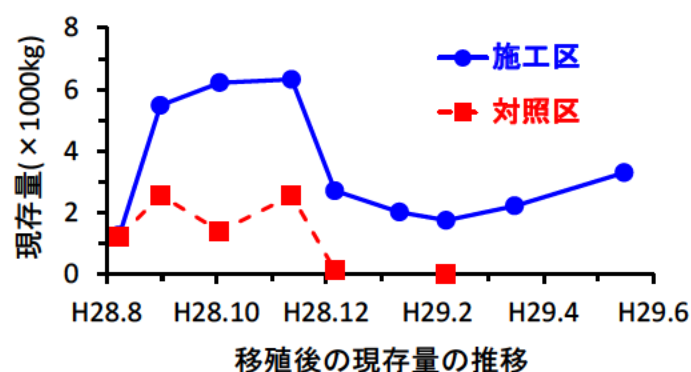
本研究は、平成27～29年度水産基盤整備調査委託事業「アサリ資源回復のための母貝・稚貝・成育場の造成と実証」により実施しました

技術開発のポイント

膨大な調査データの解析により、アサリ漁場の成立には、①貧酸素水塊の影響の回避と②地盤の安定性の維持の2つが重要であることがわかりました。本研究では、貧酸素水塊の影響が小さい水深3～4m以浅の海域において、地盤の安定性を高める手法として、碎石覆砂による漁場造成技術を開発しました。

効果の実証

平成28年8月に殻長9mmの稚貝を施工区に移殖しました。移殖後9か月目の平成28年5月には、殻長30mmの成貝に成長していることを確認するとともに、試験操業により漁獲することもできました。一方、施工区の隣に設置した対照区(何も対処していない漁場)に移殖した稚貝は、移殖後4か月目の12月までに消滅しました。



今後の課題

本研究により、漁場造成の基礎技術が確立しました。今後は、大規模造成の技術開発、造成にかかるコストの削減、施工区の耐久性向上の技術開発に取り組む予定です。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Suzuka Branch

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812